

# 分会情報

J R 東海 新幹線 関西 地本 大阪 修繕 車両 所 分会

No. 19 2009. 12. 22.

発行責任者 坂東 貞男

編集責任者 教 宣 部

## 減収で「効率化・低コスト化」！しわ寄せは社員ばかり？

先頃配布されたJR東海12月号に、JR東海の今年度第2四半期の決算内容が掲載されています。それによると東海グループの連結営業収益で前年に比べて423億円(5.5%)減、経常利益は545億円減、四半期純利益は329億円減と軒並み減収となっており、東海単体での運輸収入は641億円(10.7%)減の1割以上の減収となっています。

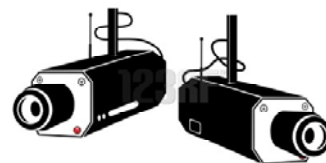
また、今年度通期の予想が書かれており、前回7月29日に発表された予想より営業収益が150億円減、営業費が150億円減でプラスマイナス0(ゼロ)となり、営業利益・経常利益・純利益は前回予想通りを確保できる予想になっています。

簡単に言えば、収益が減るから経費をその分減らすということです。

昨年のリーマンショック、休日等の高速道路の1000円均一料金や新型インフルエンザ騒ぎ等で新幹線の需要が減っているため、会社幹部は「業務執行全般にわたる効率化・低コスト化を徹底し、収益の強化を図る」とし、『昨年より減った年末手当』『カレンダーの配布廃止』『更衣室の清掃回数削減』『特殊勤務者向けの定期健康診断時の希望者の血液検査廃止』『今まで認めなかった人間ドックの定期健康診断への代用』等々、私たちが、これが「低コスト化」かと明らかにわかるところまで様々な形で現れています。当然、私たちが知りえないところでもコストが削減されていることは十分予想できます。

## 監視カメラ増設で社員は二重の苦しみ！！

ところが最近鳥飼基地内で「効率化・低コスト化」が至上命題になっているにも関わらず監視カメラが増設されていることは誰も気づいていると思います。



以前、分会情報で大阪修繕車両所の入る新事務所棟6階では、出勤・退勤を含め洗濯・便所・風呂など監視カメラに写らず移動できないほど監視カメラが設置されており、明らかに社員を監視するためのカメラとしか言えないことを明らかにしました。今度は鳥飼基地全体で同様のことが行われるのではないかと思うぐらいあちこちに監視カメラが設置されてきています。

10月中旬頃にあった回送電車に誤乗したお客様が着発線で何時間も電車に閉じこめられた事象では、鳥飼基地構内の監視カメラは全く役に立たず、もしこの誤乗したお客様がテロリストだったらと思うと、鳥飼基地構内の監視カメラの台数を増やしてもそれほど意味ないように思います。

にもかかわらず、一方で「効率化・低コスト化」と言いながら、明らかに防犯目的を超えた台数と思える監視カメラを設置する会社は何を考えているのでしょうか。

この監視カメラ設置費用に多大な費用がかかることは、容易に予想できることであり、その分の費用確保のために「効率化・低コスト化」という錦の旗印のもと私たち社員にしわ寄せ(労働強化)がくることは間違いないでしょう。

従って、私たちは私たちに対する労働強化によって生み出した利益の一部で私たちを監視するための監視カメラを設置しているという二重の苦しみを味わうことになっていると言えます。

ますます強化されつつある社員監視にみんなで反対の声を上げていきましょう！！